

建築学生ワークショップ伊勢2018

全国の大学生たちが小さな建築を、伊勢・神宮周辺区域に8体実現。



2017 年度参加学生

参加者 建築および環境デザイン等の分野を学ぶ学生および院生 50 人

参加校 (2017 年度)

大阪市立大学 大阪工業大学 大阪大学 鹿児島工業高等専門学校 関西学院大学 関西大学 近畿大学 神戸大学
京都建築大学校 京都工芸繊維大学 京都女子大学 京都精華大学 京都造形芸術大学 京都美術工芸大学 京都府立大学
国立石川工業高等専門学校 滋賀県立大学 修成建設専門学校 首都大学東京 成安造形大学 摂南大学 東京大学
東京都市大学 東京理科大学 豊橋技術科学大学 三重大学 武蔵野美術大学 武庫川女子大学 早稲田大学 ※五十音順

神宮は、三重県伊勢市にある神社本庁の本宗神社。古代より現代にも受け継がれてきた、わが国を代表する聖地において、2018 年夏、建築学生ワークショップを開催します。

2018 年度参加予定講師



公開プレゼンテーション

今春に全国から公募にて募りました、建築や芸術、環境デザインを学ぶ国内外の参加学生ら約60名が、合宿（期間：8月28日から9月2日）にて神宮周辺に滞在し、古代よりの歴史文脈に基づいた小さな建築を8体、9月2日（日）伊勢・神宮周辺区域に実現します。また12時より、伊勢・神宮周辺区域にて開催される公開プレゼンテーションでは、参加学生たちの提案意図や制作の創意工夫を発表し、国内外で活躍する建築家をはじめとした全国の大学で教鞭を執られる先生らと技術者による講評会を開催します。



大学や専攻、年齢も異なり次世代を担う参加学生たちが、歴史的に貴重な日本の聖地の環境に触発され、7月より現地のリサーチを重ねた経験に基づき、合宿による地域滞在型での制作ワークショップにより、柔軟な発想により制作した作品と発表、そして厳しくも温かい講評者の貴重なコメントを合わせてお聴きください。

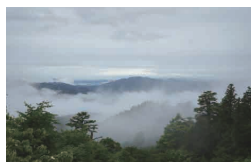
古の教えに学びながら提案し、豊かな発想力のもと実現した小さな建築空間に存在する、新たな価値の発見に迫ります。



2010 奈良・平城宮跡



2011 滋賀・竹生島



2015 和歌山・高野山



2016 奈良・明日香村



2017 比叡山・公開プレゼンテーションの様子

テーマ

“今、建築の、原初の、聖地から” 伝えたいことを、空間として表現してください。



伊勢市駅前



外宮商店街



せんぶ館・勾玉池



おかげ横丁



神宮徴古館



内宮・宇治橋

こころの故郷 — 伊勢

「皇位継承、平成最後の年に」

伊勢について

「神都」の異名を持つ伊勢は、神宮の鳥居前町として伊勢神宮と共に歩んできた街です。伊勢神宮は、神社本庁の本宗神社。創祀から 2000 年と伝えられ、古代より神々に祈りを捧げ、豊かな国土に恵まれた自然の力と、神宮の歴史の中で培われてきた人々の力を感じる聖地。神宮では 20 年に一度社殿を建て替え神座を移す「神宮式年遷宮」が催行され、街に活気をもたらすことから「伊勢の町は遷宮のたびに新しくなる」ともいわれています。

地理

伊勢は、志摩半島の北東部に位置し、伊勢湾に面しています。南部は標高 100m - 500m の丘陵・山地が広がり、中心市街地は伊勢神宮 外宮（豊受大神宮）の周辺に形成されています。市街地を外れた森の中に、伊勢神宮 内宮（皇大神宮）が位置し、皇室の御祖先の神である天 照大御神がお祀りされていることから、日本人の総氏神のように親しまれている神社です。「伊勢市」と称する以前は「宇治山田市」と称され、現在の、外宮周辺が「山田」、内宮周辺が「宇治」にあたります。

歴史・特性

宇治山田として称されていた伊勢は、伊勢神宮の門前町として古代から発展していました。江戸時代には、江戸幕府が伊勢神宮の管理を目的とする山田奉行所（大岡越前として知られる大岡忠相が奉行を務めた）を設置され、「お伊勢まいり」の街として民衆に親しまれてきました。また、天皇・皇室のための神社としても位置し、「皇紀 2600 年」にあたる 1940 年（昭和 15 年）には、約 800 万人が参宮のために当地を訪れ、現在も、日本国内はもとより世界各国より多くの方が訪れています。古代より現代にも受け継がれてきた、わが国を代表する聖地において、天皇陛下生前退位をされる平成 30 年夏、伊勢にて建築学生ワークショップを開催します。

学び・開催

場所のもつ歴史や意味、地形や風の流れ、風土といった文脈を読むことを始点として建築はつくられていきます。つまり建築という行為の原点には、「場」を読み解く力こそが始まりであり、最も重要なことだといえます。これを国内でも稀にみる森林空間と古来の伝統的建築様式を今に伝える聖地・伊勢の神宮で学ぶことは、建築の道を歩み始めた次の日本を担う学生にとっては大切なことであり、これから建築をつくる揺るぎない基軸ともなっていくことでしょう。

建築学生ワークショップとは？



平城宮跡

建築ワークショップとは、建築や環境デザイン等の分野を専攻する学生がキャンパスを離れ、国内外にて活躍中の建築家を中心とした講師陣の指導のもと、その場所における場所性に根づいた実作品をつくりあげていくことを目的としてきました。2001 年度から始まったこのワークショップは過去に山添村(奈良県)・天川村(奈良県)・丹後半島(京都府)・沖島(滋賀県)などの関西近郊の各地で行われ、それぞれの過疎化した地域を対象に提案し、市や街、村の支援を得ながら、有意義な成果を残してきました。



竹生島

第 10 回目の開催となった 2010 年度より、新たに今までの取り組み方の志向を変え、一般社会にも投げかけてゆけるような地元の方たちと共同開催での参加型の取り組みとなっていくことを目指し、「平城遷都 1300 年祭」の事業として、世界文化遺産(考古遺跡としては日本初)にも指定されている奈良・平城宮跡で開催しました。続く 2011 年度は滋賀・琵琶湖に浮かぶ「神の棲む島」竹生島(名勝史跡)にて、宝厳寺と都久夫須麻神社と共に開催。無人島とされている聖地に、地元周辺の方たちと汽船で通う取り組みを行いました。



高野山

2015 年は、開創法会 1200 年となる 100 年に 1 度の年に、高野山・金剛峯寺(世界文化遺産)との取り組みから、境内をはじめ周辺地区での開催をし、2016 年には、昭和 58 年 11 月 7 日に聖地・キトラ古墳で、ファイバースコープによって北壁の玄武図が発見されてから 30 年を経て、公開される直前のキトラ古墳と国営飛鳥歴史公園の開演イベントとして、キトラ古墳の麓に小さな建築を 8 体実現。2017 年には、国宝根本中堂「平成の大改修」始まるの年に、「古都京都の文化財」の一環としてユネスコの世界遺産に登録された、京都市と大津市にまたがる天台宗総本山・比叡山延暦寺にて開催。



明日香村

このような日本における貴重で特殊な聖地における環境において、地元の建築士や施工者、大工や技師、職人の方々に古典的な工法を伝えていただきながら、日本を代表する建築エンジニアリング企業・日本を代表する組織設計事務所の方々や多くの施工会社の皆様、そして建築エンジニアリング企業の方たちによる技術者合宿指導により実制作を行い、地元・地域の多くの方たちによる協力のもと、原寸の空間体験ができる小さな建築物の実現と、一般者を招いた公開プレゼンテーションを行う等、これまでにない新たな試みを実施する『全国の大学生を中心とした合宿による地域滞在型の建築ワークショップ』です。



比叡山

開催目的



公開プレゼンテーションの様子

1. 学生のための発表の場をつくる

学内での研究活動が主体となっている学生にとって、一般市民に開かれた公開プレゼンテーションを行うことが非常に貴重な体験となります。また、現在建築界で活躍する建築家を多数ゲスト講師に迎えることで、質の高い講評を参加者は受けることができます。また、ワークショップ終了後の会場での展示や、会期報告としてホームページや冊子の作成を行い、ワークショップの効果がさらに継続されるような仕組みをつくります。



提案作品講評会の様子

2. 教育・研究活動の新たなモデルケースをつくる

海外での教育経験のある講師を招聘する等、国際的な観点から建築や環境に対する教育活動を行うワークショップとして、国内では他に類を見ない貴重な教育の場を設けます。また、行政や教育機関の連携事業として開催することで、国内外から注目される教育・研究活動として、質の高いワークショップをつくることを目指します。



実施制作打合せの様子

3. 地球環境に対する若い世代の意識を育む

現在、近畿の各地方には、世界に誇る貴重な文化遺産を有する京都や奈良、琵琶湖や紀伊半島の雄大な自然など、豊かな環境が数多く残っています。しかしながら、近年の社会経済活動は環境への負荷を増大させ、歴史的に価値の高い環境をも脅かすまでに至っています。とりわけ、今回のフィールドとして検討している神宮においては、国内でも有数の森林を背景に、平安の時代から仏教の聖地として人と森林が共生して創りあげてきた文化的遺産が存在するのです。このワークショップでは一人一人がこうした地域環境の特殊性、有限性を深く認識し、今後の建築活動において環境への配慮を高めていくと同時に、地球環境の保全に貢献する人材を育てていくことをねらいとしています。次世代を担う学生たちが、具体的な経験を通して環境に対する意識を育むことは、環境と建築が共存できる未来へと、着実につながるのではないかと考えます。



現地説明会・調査の様子

4. 地域との継続的な交流をはかる

歴史、文化、自然が一体となって残る地域の特色を生かしたプログラムを主軸に、特殊な地域環境や、住民との交流によって生み出される制作体験を目的としています。神宮には、それぞれの土地で積み重ねてきた独自の歴史や文化、風土があり、自然素材を上手く活用してきたのです。短期間のイベントであればそれらを深く知ることはできませんが、数ヶ月にわたる継続的な活動を前提として取り組むことで、より具体的な提案や制作によって、地域に還元していくことができると考えています。



集合写真

開催概要

開催テーマ “今、建築の、原初の、聖地から”

開催希望場所 伊勢・神宮 周辺区域（三重県）
（候補地）豊受大神宮（外宮）周辺区域

衣食住をはじめ、あらゆる産業の守り神である豊受大御神がお祀りされています。

内宮創建から 500 年後に天照大御神のお食事を掌る神様として伊勢の山田原にご鎮座されました。

（候補地）皇大神宮（内宮）周辺区域

皇室の御祖先の神である天照大御神がお祀りされています。

垂仁天皇の 26 年（紀元前 4 年）に五十鈴川の川上にご鎮座され、日本人の総氏神のように親しまれている神社です。

予定スケジュール 2018 年度（平成 30 年）

2017 年 11 月 23 日（木）参加学生募集・座談会の開催

12 月 01 日（金）参加者募集開始

12 月 16 日（土）事業計画（草案）決定と募集パンフ全国配布

2018 年 1 月 06 日（土）プレスリリース配信（雑誌各社への広報）

※5 月 10 日（木）参加説明会開催（東京大学）候補者 藤森照信 or 腰原幹雄

※5 月 17 日（木）参加説明会開催（京都大学）候補者 藤森照信 or 遠藤秀平

※5 月 31 日（木）23:59 必着 参加者募集締切（参加者決定）

6 月 23 日（土）現地説明・調査

7 月 14 日（土）13:00 - 17:00 各班エスキース（東京会場）（大阪会場）於

7 月 28 日（土）～ 29 日（日）提案作品講評会と実施制作打合せ（1 泊 2 日）

7 月 28 日（土）提案作品講評会

7 月 29 日（日）実施制作打合せ

7 月 30 日（月）～ 8 月 27 日（月）各グループ課題の制作

8 月 28 日（火）- 9 月 3 日（月）合宿にて原寸制作ファイナル（6 泊 7 日）

8 月 28 日（火）現地集合・資材搬入・制作段取り（1 日間）

8 月 29 日（水）～ 9 月 1 日（土）原寸模型制作（4 日間）

9 月 2 日（日）公開プレゼンテーション（1 日間）

9 月 3 日（月）清掃・解散（1 日間）

制作内容

“唯一無二の環境を守るために、あなたの提案を実現化してください”

フォリーの原寸模型を地域産材（自然素材 / 木材、和紙、土、石など）の材料で制作

Architectural Workshop ISE 2018

予定表

2017年	9月1日(木)	開催決定
	10月末日	計画地決定
	11月23日(木)	座談会
2018年	5月10日(木)	参加説明会開催(東京大学)
	5月17日(木)	参加説明会開催(京都大学)
	5月31日(木)	参加者募集締切(参加者決定)
	6月23日(土)	現地説明会・調査
	7月14日(土)	各班エスキース
	7月28日(土)	提案作品講評会
	7月29日(日)	実施制作打合せ
	8月28日(火)	現地集合・資材搬入・制作段取り
	8月28日(火)~9月2日(日)	合宿にて原寸制作(6泊7日)
	9月2日(日)	公開プレゼンテーション
	9月3日(月)	撤去・清掃・解散

写真は2017年度開催の様子



参加対象者	建築および環境デザイン等の分野を学ぶ学生および院生
参加人数	60人(大学院生1人+参加学生4~6人)×8班 計50名(上限)+運営サポーター10名(上限)
学生参加費用	実費(宿泊費、保険代、図録・資料代、一部食費等 約¥35,000 予定 / 事前徴収制) ※ 現地までの交通費は各自別途負担となります。 ※ このワークショップは、ご賛同をいただいている企業・財団、ならびに開催地の有志の方々のご協力と、学生の参加費により運営をしています。被災地域からの参加学生がある場合は、減免・優遇します。

参加講師(予定) ※日本を代表する講評者・総勢二十二名による講評

日本の文化を世界へ率いる方々や、建築・美術 両分野を代表する評論家をはじめ、第一線で活躍をされている建築家や都市計画家、アートディレクターやコミュニティデザイナー、構造研究を担い教鞭を執られているストラクチャー・エンジニアによる講評。また近畿二府四県の大学で教鞭を執られ、日本を代表されるプロフェッサー・アーキテクト、コミュニティデザイナー等にご講評いただきます。

太田 伸之 (クールジャパン機構 CEO)	佐藤 淳 (構造家 東京大学 准教授)
栗生 明 (建築家 千葉大学 名誉教授)	陶器 浩一 (構造家 滋賀県立大学 教授)
小松 浩 (毎日新聞社 主筆)	芦澤 竜一 (建築家 滋賀県立大学 教授)
建畠 哲 (美術評論家 多摩美術大学 学長)	遠藤 秀平 (建築家 神戸大学 教授)
南條 史生 (美術評論家 森美術館 館長)	竹原 義二 (建築家 摂南大学 教授)
山崎 亮 (コミュニティデザイナー 東北芸術工科大学 教授)	長田 直之 (建築家 奈良女子大学 准教授)
五十嵐太郎 (建築史家・建築評論家 東北大学 教授)	平田 晃久 (建築家 京都大学 准教授)
稲山 正弘 (構造家 東京大学 教授)	平沼 孝啓 (建築家 平沼孝啓建築研究所 主宰)
腰原 幹雄 (構造家 東京大学 教授)	横山 俊祐 (建築家 大阪市立大学 教授)
櫻井 正幸 (旭ビルウォール 代表取締役社長)	吉村 靖孝 (建築家 明治大学 特任教授)

主 催	特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ
特 別	神宮司廳
連携共催	伊勢市

特別協力	文化庁 観光庁
特別協賛	旭ビルウォール
連携協賛	赤福 ミキモト 美和ロック
協 賛	組織設計事務所・ゼネコン・地域企業
後 援	三重県教育委員会 伊勢市教育委員会 伊勢商工会議所 毎日新聞社 日本建築学会 日本建築士会連合会 日本建築士事務所協会連合会 日本建築家協会 日本建築協会 日本建築材料協会 三重県建築士会 日本建築家協会三重地域会 三重県建築士会東海北陸ブロック会 三重県建築士事務所協会 三重県建設業協会

地域協力	皇學館大学
協 力	近畿日本鉄道 三重交通※全て予定(相談中) ※全て予定(相談中)